

働く男のライフスタイル情報紙

Biz [ビズスタ] Life Style 特別版

2021 02

『BizLife Style』は東京、関西、
仙台、福岡、広島にて39万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005
企画・制作／株式会社ディリースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TX Tower UENO 14F
©2021 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



Pasha de Cartier

時代を超える普遍的な美。カルティエ ウオッチ。

Santos de Cartier

飛行中に時計を見たい。飛行士の願いから生まれた革命。



Laziz Hamani © Cartier



Laziz Hamani © Cartier

当時のオビ「オーニーダー」やインフルエンサーが先を争つように愛用したため成功者のステータスと認識されていたが、今回のリコールでは何を成し遂げた達成者これが成し遂げた達成者これらは、長い間、最も多くの腕時計を購入していることが多い。一本の時計を開発するには多くの場合、両者が互いの協力を仰ぐことになる。カルティエは長く、ケースづくりを担当してきたが、その無限の探求心がデザイン分野のみに留まるはずもなく、満を持してムーブ

トと呼ばれる機械部とそれを包むケース部分を別の会社が製造していることが多い。一本の時計を開発するには多くの場合、両者が互いの協力を仰ぐことになる。カルティエは長く、ケースづくりを担当してきたが、その無限の探求心がデザイン分野のみに留まるはずもなく、満を持してムーブ

腕利きの宝石細工師だったカリフ・ラシッド・カルティエがパリの街角に工房を構えたのは1847年のこと。早々に各国王室の御用達へと昇りつけ、勢いを増して宝飾業界だけではなく時計分野へも革命的躍進を大げる「カルティエ」の大躍進は、機械の精度を競い続けていた当時の時計師たちに衝撃を与える。時を告げる機械だった腕時計を、ジゴエリーのように自由に愉しむ自己表現アイデアへと書き替えたのだ。

腕時計の歴史を
大きく塗り替えた
メゾンの新作

本物志向の大手を魅了する機械式腕時計には、一つの味わいがある。ひとつは、無数の歯車が糸乱れず仕事に励む「工学的な美」。まるで、ひとつの街の芸術としての「美」を持つものだ。もうひとつは、「このメゾンをおいてほかにない」。

腕利きの宝石細工師だったカリフ・ラシッド・カルティエがパリの街角に工房を構えたのは1847年のこと。早々に各国王室の御用達へと昇りつけ、勢いを増して宝飾業界だけではなく時計分野へも革命的躍進を大げる「カルティエ」の大躍進は、機械の精度を競い続けていた当時の時計師たちに衝撃を与える。時を告げる機械だった腕時計を、ジゴエリーのように自由に愉しむ自己表現アイデアへと書き替えたのだ。

ウォッチ製品は、ムーブメントと呼ばれる機械部とそれを包むケース部分を別の会社が製造していることが多い。一本の時計を開発するには多くの場合、両者が互いの協力を仰ぐことになる。カルティエは長く、ケースづくりを担当してきたが、その無限の探求心がデザイン分野のみに留まるはずもなく、満を持してムーブメントの設計へと進出。現在では、時計製造の全工程を自社で完結できる数少ない真の「マニア」がある。ひとつは、無数の歯車が糸乱れず仕事に励む「工学的な美」。まるで、ひとつの街の芸術としての「美」を持つものだ。もうひとつは、「このメゾンをおいてほかにない」。

腕利きの宝石細工師だったカリフ・ラシッド・カルティエがパリの街角に工房を構えたのは1847年のこと。早々に各国王室の御用達へと昇りつけ、勢いを増して宝飾業界だけではなく時計分野へも革命的躍進を大げる「カルティエ」の大躍進は、機械の精度を競い続けていた当時の時計師たちに衝撃を与える。時を告げる機械だった腕時計を、ジゴエリーのように自由に愉しむ自己表現アイデアへと書き替えたのだ。

ウォッチ製品は、ムーブメントと呼ばれる機械部とそれを包むケース部分を別の会社が製造していることが多い。一本の時計を開発するには多くの場合、両者が互いの協力を仰ぐことになる。カルティエは長く、ケースづくりを担当してきたが、その無限の探求心がデザイン分野のみに留まるはずもなく、満を持してムーブ

メントの設計へと進出。現在では、時計製造の全工程を自社で完結できる数少ない真の「マニア」がある。ひとつは、無数の歯車が糸乱れず仕事に励む「工学的な美」。まるで、ひとつの街の芸術としての「美」を持つものだ。もうひとつは、「このメゾンをおいてほかにない」。

腕利きの宝石細工師だったカリフ・ラシッド・カルティエがパリの街角に工房を構えたのは1847年のこと。早々に各国王室の御用達へと昇りつけ、勢いを増して宝飾業界だけではなく時計分野へも革命的躍進を大げる「カルティエ」の大躍進は、機械の精度を競い続けていた当時の時計師たちに衝撃を与える。時を告げる機械だった腕時計を、ジゴエリーのように自由に愉しむ自己表現アイデアへと書き替えたのだ。

ウォッチ製品は、ムーブメントと呼ばれる機械部とそれを包むケース部分を別の会社が製造していることが多い。一本の時計を開発するには多くの場合、両者が互いの協力を仰ぐことになる。カルティエは長く、ケースづくりを担当してきたが、その無限の探求心がデザイン分野のみに留まるはずもなく、満を持してムーブ

メントの設計へと進出。現在では、時計製造の全工程を自社で完結できる数少ない真の「マニア」がある。ひとつは、無数の歯車が糸乱れず仕事に励む「工学的な美」。まるで、ひとつの街の芸術としての「美」を持つものだ。もうひとつは、「このメゾンをおいてほかにない」。

Pasha de Cartier

時代を超えた不变の美。1985年の伝説が、いま、再び。



Maud Remy-Lonvins © Cartier



Raymond Meyer © Cartier



Vincent Wulverink © Cartier

サンツ ドゥ カルティエ
CRWHS0015
47.5×39.8mm
手巻き
ステンレススチール／ブレスレット
3,234,000円(税込)

Vincent Wulverink © Cartier

サンツ ドゥ カルティエ
CRWSSA0039
47.5×39.8mm
自動巻き
ステンレススチール&ADLC加工
レザーストラップ、ラバーストラップ
896,500円(税込)

Vincent Wulverink © Cartier

サンツ ドゥ カルティエ
CRWGSA0032
46.6×33.9mm
手巻き
ピンクゴールド／レザーストラップ
1,808,400円(税込)

Vincent Wulverink © Cartier

サンツ ドゥ カルティエ
CRWSSA0022
43.5×31.4mm
クオーツ
ステンレススチール／レザーストラップ
451,000円(税込)

Vincent Wulverink © Cartier

サンツ ドゥ カルティエ
CRWJPA0013
35mm
自動巻き
ピンクゴールド、ダイヤモンド
ブレスレット、レザーストラップ
4,488,000円(税込)

Vincent Wulverink © Cartier

サンツ ドゥ カルティエ
CRWGA0007
41mm
自動巻き
イエローゴールド
ブレスレット、レザーストラップ
1,940,400円(税込)

Vincent Wulverink © Cartier

サンツ ドゥ カルティエ
CRWSPA009
41mm
自動巻き
ステンレススチール
ブレスレット、レザーストラップ
781,000円(税込)

Vincent Wulverink © Cartier

サンツ ドゥ カルティエ
CRWSPA012
35mm
自動巻き
ステンレススチール
レザーストラップ2本
665,500円(税込)

Vincent Wulverink © Cartier

Tank

時計の常識を塗り替えた、永遠のマスターピース。



Photo 2000 © Cartier
タンク アメリカン
CRWB710015
27×15.2mm
クオーツ
ホワイトゴールド、ダイヤモンド/レザーストラップ
2,032,800円(税込)



© Cartier
タンク フランセーズ
CRW4TA0008
25×20mm
クオーツ
ステンレススチール、ダイヤモンド/ブレスレット
863,500円(税込)



© Cartier 2019
タンク フランセーズ
CRWGTA0029
25×20mm
クオーツ
ピンクゴールド/ブレスレット
2,336,400円(税込)



Vincent Wulverwyck © Cartier
タンク ルイ カルティエ
CRW1529856
29.5×22mm
クオーツ
イエローゴールド/レザーストラップ
1,069,200円(税込)



Laziz Hamani © Cartier

の歴史的なタイムピース。年表の上では前ページの「サントス」から少し遅れるが、懐中時計から機械式腕時計への移行に大きく貢献した作品であり、アールヌーボーからアールデコへの進化を先导したルイ・カルティエ自身の愛用モデルを含むなど、名工ピエト・ウォッチの代表的な製品だ。

長い縦枠が黄金比のようにも見える独特的な四角形をベースに一切の無駄を省き、ケースとラグを一体化すると、そのままタンクと名付けられたこの作品は、米国ヨーロッパ派遺軍総司令官

の第一次世界大戦中に導入された戦車にヒントを得たとされている。そのままタンクと名付けられたこの作品は、米国ヨーロッパ派遺軍総司令官

ラシックの名曲か、それとも欧洲の歴史的建築物か。「古びない」「色褪せない」「時代に左右されない」という意味において、カルティエは数ある欧洲の名門メゾン群でも屈指の存在と言えよう。

そして、このページで紹介するコレクションこそは、その極致とも呼べる。名作揃いのコレクションでもひときわ眩く輝く「タンク」は、やはり百

年以上前の1917年に誕生した歴史的なタイムピース。年表の上では前ページの「サントス」から少し遅れるが、懐中時計から機械式腕時計への移行に大きく貢献した作品であり、アールヌーボーからアールデコへの進化を先导したルイ・カルティエ自身の愛用モデルを含むなど、名工ピエト・ウォッチの代表的な製品だ。

時代も流行も関係ないと証明し続ける美のメゾン。本誌で紹介した実物は下記店舗で体感できるので、ぜひ足を運んでみていただきたい。生味わえる美の世界に出会えるはずだ。

誌面の都合から駆け足で新作や注目のコレクションを紹介できない。なぜなら、手に取れることは、この文字数では各コレクションの見どころの半分も紹介できない。なぜなら、手に取

り、腕に着けて初めて伝わる感覚も、カルティエウォッチの魅力の大きな要素となるからだ。

に贈られた後、1919年に一般発売へ。平和の到来への喜びを軸に、自由で洒脱、圧倒的にエレガントなエスプリを「カルティエの美」で華麗に仕上げたタンクは即座に大人気となり、腕時計時代の隆盛とともにメゾンのアイコンの一角として長く愛されることになる。

その人気に応える形で、タンクのコレクションには、さまざまなバリエーションが派生している。戦時の着想ながら、現在はユニセックス仕様や女性向けモデルを展開中だ。上下方向のサイズを大胆に増してさらに優美さを強調したり、クオーツの新ムーブメントを採用したり、ゴールドやダイヤモンドを贅沢に使うブレスレットウォッチを追加したり…と、近年も自由奔放に美を愉しむかのような新コレクションを続々と世界に届けている。

常に時代をリードし、男女を問わず「永遠の憧れ」であり続けてきたカルティエ。その圧倒的かつ独特な美の世界は、来る3月9日から15日までそごう千葉店4階フロア及び1階入り口スペースにて開催予定の「カルティエ ウォッチコレクション2021」で確認できる。

同店でも初の試みとなる大規模イベントで、期間中はアイテム数を大幅に拡充。本紙掲載の新作コレクションをはじめ、充実の品揃えで迎えてくれる。

また、メゾン最新のコンセプトを反映した上質な空間も大きな見どころ。その日は、生涯とも歩ける「最高の一本」に出会う記念日となるかもしれません。

そごう千葉店 4階時計サロン 取扱いブランド

カルティエ、フランク ミュラー、オメガ、グランドセイコー、ユリス・ナルダン、ゼニス、ショパール、ブライトリング、タグ・ホイヤーなど

Biz Life Style Pick up >>>

そごう千葉店でも初となる大型イベント『カルティエ ウォッチコレクション2021』が、3月9日(火)開幕!



そごう千葉店 カルティエ ウォッチサロン

千葉市中央区新町1000番地 TEL.043(245)8181(直通) 営業時間:午前10時~午後8時

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休業や営業時間、価格の変更、イベント(催事)の中止や延期など、一部掲載内容が変更となる場合がございます。